

■ 力強く  
 名 氏 / 日 記  
 僕は今まで美術の道で一番見たいと思ったのが、パリのルーヴル美術館の彫刻だ。その彫刻の力強い印象だ。  
 今までのパリの彫刻は力強く、自然な力に満ち溢るものだった。

私と美術  
 名 氏 / 日 記  
 僕は今までに美術の道で一番見たいと思ったのが、パリのルーヴル美術館の彫刻だ。その彫刻の力強い印象だ。今までのパリの彫刻は力強く、自然な力に満ち溢るものだった。

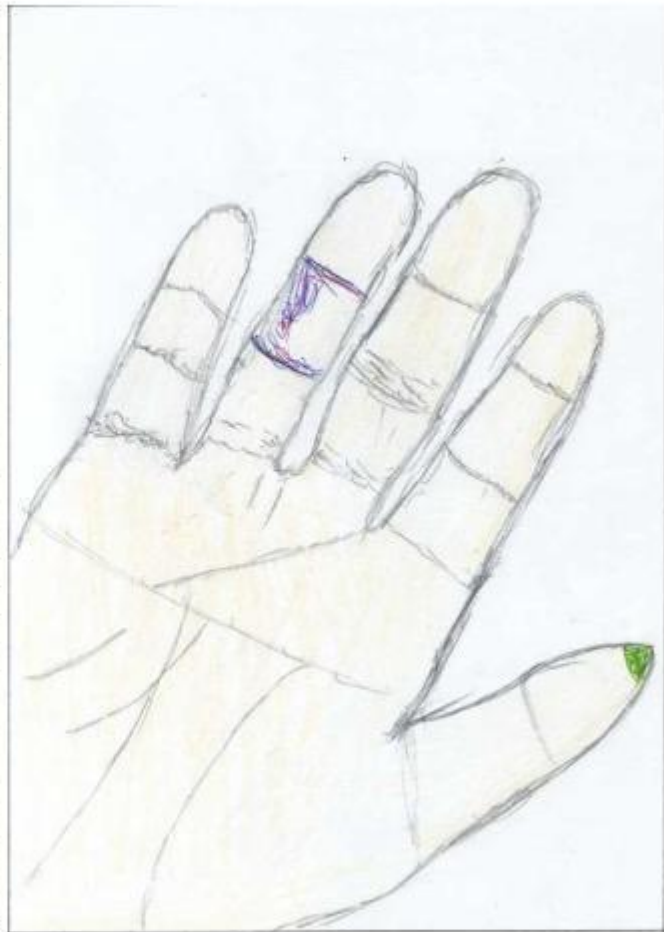


題名 僕の手 E画 2冊 58  
 この3年間この手で製作をしてきました。  
 時には、ホドホドにけつなったり線の具まわりのな  
 りはしたが、いかに製作できました。  
 その線の具まわりにふたがきでそのなだつ  
 あります。  
 色が落ちずに書物もいれかゝるのでは、とてそ  
 よめたと思ふので、自分の手を描いた絵をい  
 へると思ひ出した。これと続きます。  
 ホドホドは、五割書きのしつぱに描いてある  
 使いました。いふ事は、今(あちやま)やうです。

### 私と美術

E画 2冊 64

はくは、この3年間書一とせ、重宝はかりがた。  
 小学生から中学生にいた時は、合まてではおとせ  
 にじ、黄色ドリアンなどは、初め7の時描いた。  
 フラミンゴの絵の甲を張るために、は中学生では  
 けして来た。かたし、油絵のた、いかに描いた  
 三年生では、つねに作る。た、秀E本"も使った  
 など美術と国工を合わせたものでした。  
 つねの場合、夫のすけありた色の合小かりなを  
 下りし、たか、は、い、美術は、自分の思ひ通り  
 描けるものを書けるので、とてたのび  
 とくありました。  
 ちり、絵は得意では、たか、た、瞬間的にた、た  
 前、自分の用意したものと、た、は、本気で自由  
 よめたと思ふ。





題 '15年毎、また手' E冊 4冊 151

私はこの15年毎にまた左手を15年前の33才右手を15年前の33才のとき描いたのと同じように描き直した。中央の手のとき描いたのと同じように描き直した。中央の手のとき描いたのと同じように描き直した。

工夫は白い紙や手前に出して光る所口  
黒くぬってあげた。おのれわ女にのけた。

### 私と美術

E冊 9冊 151

どかりやういふと美術的にして有名な人  
名を聞いた。これはおもしろい。知識がウチにはなく  
美術的にいってわけてはなく美術家が自分からない人間に  
た。自分が見たものどう思っている。これはなにか  
と考へて答を出すことはできません。美術にはとても  
興味がある。人類の富をとも思っている。カサウ  
モツはいいから、別に美術に描くおもしろい  
ウチをいって描くつもりもない。真実をうつす  
ないで、わくわく知識をくわけて思っています。

154



題名 左手

EWS 氏名

半径20cmは私が手をさしたのから木の距離。  
そのあすかを世界にいる人だけでも終いたい。そうねか。てがさ  
ました。その題いけさしたすこめてがきました。  
えんがっどンオープンさつがいおけました。

私と美術

EWS 氏名

私にと、て美術は、  
思、たようにはいかないけた、自分の心をせいいはいえ  
てきた、この世界そのものたえ思、ています。  
学べるものは多か、たけ、理解できたものな少るの、たけ  
ど、まじのよい時間をはなつたです。



題名 ショウワチ

E冊 6冊 114

この手はもとめてはXジャンプをしよう時  
の事だ。たのたが、今では未来に向かて「早くどー、  
ピキーン」ショウワチよといたかんじの手である。  
まわりの線をなくして「スピード感」を出す。  
また、指の先には光があり、また「また」先が  
ある様に見える。

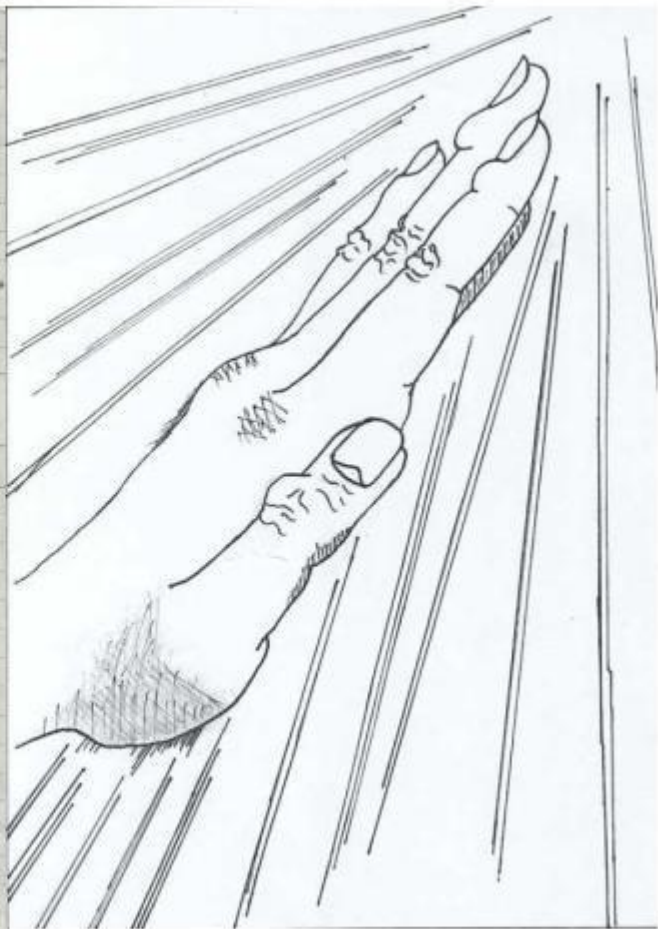
おカバンを書いたのは、新しいなすんじ  
でけなくかたく鎖といかんじをたしたや、たが。

私と美術

E冊 6冊 114

美術は自分を表現する一つの手段だと  
思っている。技法など「とまたたか」  
ことにより自分を表現でしてし、ひきか  
また、その技法とよき人た「街」の中た  
の技法が「ちり」はひきかたきうことに気が  
きた。たこは「会社」のロゴを「と」に「シ  
トリー」かつかきい、たし、たす。

今後は、もっと深い「こ」に「こ」で  
「ま」ちと「か」の「かんじ」をきたんこ  
いきたら「と」。









第1巻 フレミング左手の法則 E 119 頁

理科の「電流と磁界」の問題を解いているときの左手も、その形を描きました。

全体的な形を大おおきく書いて、くっきりな線で書いて、影などの細い部分をつけ加え、最後に色をつけた。

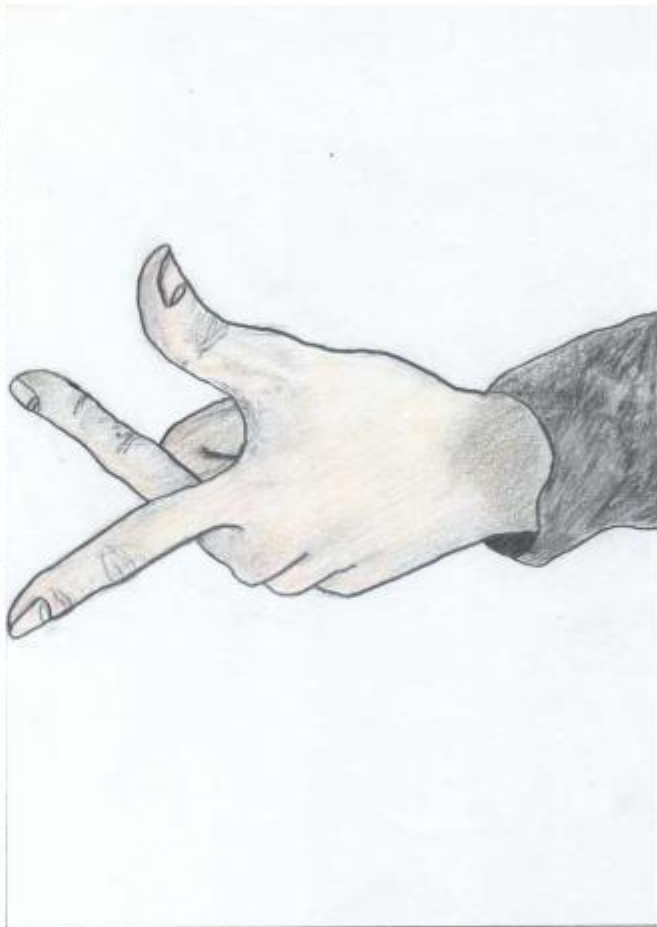
影や色の濃いところと薄いところには意図して描いた。

私と美術 E 117 頁

美術を専らで、生活の中のあらゆるものに美術が含まれているということが分かった。美に見る方法、色ばかりで見る方法、

見たままの方法など、実際に生活を送るための基礎となることと思う。

美術の能力で自分に最も足りないのは、空間を表現することだと思う。2次元だけでなく3次元も表現できるようになりたい。



題名 握り拳	E 10画 1年1
<p>中学校の3年間で経験したことや 青色～黒色で表現した。その中から見出した、 得られたものを光として表現した。その光を くっとして握りしめて、これから進んでいくという 気持ちと握り拳に表現した。</p>	
私と美術	E 10画 1年1
<p>一年のときに自分の手を描いたときに、鉛筆 一本で絵を描くことが楽しいと思った。 その頃は見たままを描くだけだったけど、 2年になって陰影描きや、遠近法を学んで、 よりリアルに描けるようになった。 また、それまでは、ただ対象を描くだけだった けど、今回の作品のように、今は自分の考えや 思いを表現できるようになった。 美術は自分を表現する1つの方法だと思った。</p>	







題名 挿画と手 , E 田村 氏  
 何かを挿画と、たのむ絵と挿画した。  
 それは「自由自律の心」だ。たり、「困難な力」など。  
 中学校で、字んたり、理解したものを挿画したし、  
 かく、力強い色ということも赤と主体にした色で  
 挿画した。中学校で挿画に熱を込めて、  
 高校や大学、社会人にも希望の光として、  
 見てほしいと願っています。

私と美術 E 田村 氏  
 とにかく「先で作成中」ということをして  
 ずして、おもしろい、美術(何れ)は得意では  
 ありませんでした。今も苦学苦学なため、  
 与はすほど、嫌いなけれど、変わりがなくおもしろいとい  
 うことはなくなってました。この期間で「絵」は、  
 「絵」で構造的、作品をいじく、そのために多量と  
 しく力、そして、「完成したのな」ことと長い  
 工夫を要する力、を習った。しかし、私はとつと  
 おもしろいことになり、中学校での美術の授業がかわ  
 りました。これは、必ず役に立つ時が来るので、  
 高校に行くと社会に出て、をかし、はたこと  
 思っています。



光と影

Em4 50

物ごとには光と影があり、明るい部分  
 があると暗い部分も持っている。最近はこの  
 暗い部分ばかり出てきていると思う。「百年の  
 1度」といわれる予備身の中、暗いニュースばかり  
 が流れ、不安ばかりのはかりである。特に後晩  
 が来るという自分にとって最も苦しい時  
 である。しかし、暗い部分ばかりは明るい部分も  
 必ずある。テニソカ初の黒人大統領の誕生、野球  
 などWBCといったことからこの暗い影を明るく  
 してゆく時が来たかと思う。何を忘れることが  
 ないように笑顔でいれるようにしたい。



私と美術

Em4 50

美術はこの3年間で今までよりも多くの物に気づき  
 どのようにして来たかと思う。それは、高校の時は、  
 美術に興味もなかった。ただ、うけているだけという  
 感じであったが、中学時代に美術の先生から  
 興味が湧き、感じることができました。美術  
 視点でも美術以外の視点でも色々な気づき  
 があると思えます。また、美術の先生は、  
 いろいろ見せてくれます。それが、美術の先生  
 の関心を見ることができ、美術、と人とは  
 違うものがあるのだと思う。生活上のこ  
 れが、美術の先生に伝えられ、それに気づく  
 ことがないかと思う。それが、美術に気づく  
 ことができた。そして、美術が、美術に  
 気づいた後、美術の先生から、美術の先生  
 生活上のここの美術の先生から、美術の先生  
 思う、自分の美術の先生から、美術の先生



題「なげねの乗車」	E組 19日 15時
この絵は自分が好きな歌の好きな歌詞をイメージして自分の なつくり、想像などほびのうせ書いた。	
この歌の中で好きな歌、というテーマは力強く表現しようとした 歌はいろいろとこの絵をあるところから絵をうたえたり直したり をした。	
自分が書きたか、と通問された なげました。	

私と美術	E組 19日 15時
今日、改めて三年間は自分が描いた自分を見て	
思っていた、書きたか、と、なげねとてすかて、他の人が	
見てみながらうたえかえはしませんか、自分の描きたいのが	
描けるようにうたえられた、うたえられた、うたえられた、	
うたえられたがこの三年間、その間に成長したと思っ た。	



題 1 現在  
 E 組 7 番 氏名

右手で経験してきたことが左手でそれを支え、これから  
 右手で高校受験、大学、就職、などという大きなことを  
 つかんでいく。左手は右手で経験してきたこと下からはなさないよ  
 うに右手は何かをつかみよように描いた。  
 水がつかんでいく石の緑は色を塗した。

私と美術  
 E 組 7 番 氏名

小学生と違い、顔の黒い色線がなまぬがぬが時にとかてきた  
 おたかた文字と同じで、顔の黒い色線がなまぬがぬが時にと  
 てきた。顔の黒い色線がなまぬがぬが時にとかてきた。顔の黒い  
 色線がなまぬがぬが時にとかてきた。顔の黒い色線がなまぬがぬ  
 が時にとかてきた。顔の黒い色線がなまぬがぬが時にとかてきた。  
 顔の黒い色線がなまぬがぬが時にとかてきた。顔の黒い色線がなま  
 ぬがぬが時にとかてきた。顔の黒い色線がなまぬがぬが時にとか  
 てきた。顔の黒い色線がなまぬがぬが時にとかてきた。顔の黒い  
 色線がなまぬがぬが時にとかてきた。顔の黒い色線がなまぬがぬ  
 が時にとかてきた。顔の黒い色線がなまぬがぬが時にとかてきた。



題名 強くつかむ 日 期 1988.11.18

素に向かっ強くつかむ というのを表すために、より  
 この力を表して、より強く、下段のシクを、自分の力  
 ぬり、手に力みをした。固りは、明らかなるを、表すに  
 押しこめて、より、手の裏で、クと自然な変化を、見  
 せるように、筆を重ねた。手のひらのしわを、にまいて、  
 手、中心の力を、寄せていくことで、より、強く、にぎ、り、は  
 という力を見せられるようにした。

私と美術 日 期 1988.11.18

美術の様々な技法を学んできたのは、かた、  
 一人の作品を作り上げるにも、色と形の重なりを、た、  
 他人には、きり分断するの、せい、い、け、と、色と形を、合、せ、  
 自然な変化を、させる。こういったことを、学、ぶ、と、有、名、な  
 作品を見たときに、手、こ、ん、技、を、作、せ、る、こ、い、つ、か  
 わ、り、し、た、ら、は、握、り、手、の、ま、え、も、感、じ、と、れ、る、か、も  
 し、わ、る、い、か、ら、に、その、技、を、自、分、の、作、品、に、も、取、り、入  
 れ、る、こ、い、ろ、う、作、品、が、大、く、な、る、と、思、う、3、年、間、の、積  
 累、を、通、じ、て、感、じ、る、こ、と、は、(他人の作品を見て、お、し、  
 自、分、の、作、品、を、見、て、お、う、こ、と、で、よ、ま、す、と、い、う、こ、と、で、  
 人、た、け、で、作、品、を、作、る、の、こ、い、つ、か、と、他人からの、好、意、  
 と、か、ら、い、な、く、か、ら、い、な、く、出、逢、し、な、い、し、他人の  
 作、品、を、見、る、か、は、今、打、と、違、な、感、性、の、こ、い、つ、か、  
 作、り、か、り、。見、て、思、わ、れる、が、美術を、学、ぶ、よ、う、の、基、本  
 と、な、る、か、ら、と、思、う。



何せ... E 19 第 九  
 何かに向けて必死に伸ばされた手。それをイメージして描きました。言いたい何かを常に欲しているはずで、無論、僕も例外ではありません。けれど、誰も望んだものを得られず、決して失ったものも手放さず、しかも、何かを失ったとしても、僕等は手を伸ばし、手に入れたと居振ります。だから、人の本性を「5歳の手」であると同時に「何せ...」という態度を何れも表現しました。



私と美術 E 19 第 九  
 人を羨しませるものかと思ひます。人が美しいと思ふ形を、色を表現し、それを他にも共有するものかと思ひます。なぜなら、思ふがよいは、今まで美術の分野は大抵藝術の鑑賞者があつたが、他人の羨望を対峙し、羨望を共有するものが、夫にそれを楽しめるものであつて、

題名	グッド88	E #20 氏名
<p>この作品に僕はグッド88(good 88)という言葉を込めました。なぜなら何か困った時があってもgood 88(グッド88), という言葉を見出したときその気持ちになれるからです。またこの絵解で工夫した部分は3つあります。1つ目はモトーンを白と黒だけにしました。なぜならその方が強調が強いと思ったからです。2つ目はモトーンを手のしわで作り出したことです。3つ目は背景の黒と手のまわりは白で描いたことです。このことgood 88という明るさがもたらされるといったからです。</p>		

私と美術	E #20 氏名
<p>僕は美術とは自然(ナチュラ)なものだと思っていました。だから小学生の時の図画工作の時間では自分の思う通り、正直な絵に取り組みしていました。しかし中学生になり美術を勉強していくうちに自分の中で少しずつ美術への思いが変わっていききました。例えば一点透視や「空気遠近法」, 「色による遠近法」などです。これら美術には計算しつくされたとても数学的な考えもあるということが分かりました。しかし僕はまだ美術をよく知りません。なのでこれから機会があれば、少しずつ美術の奥の奥の部分を研究してみたいと思います。</p>	



題名 パワー F 冊 21 冊 年 5

この作品には、力強さやパワーを表現しました。手の表現は「one」を示しています。「one」は、始まりの意味で、今年が高校に入るのが新しい始まりを表現したかったのです。中びが指している方向を上にしたのは、未来や将来を指していて、明るい未来や希望にしたいという思いから上になりました。色は明るく暖かい色を表現したかったので暖色を使って、やわらかいようなイメージにしました。中びに光をあつめたのは、夢に近づくとかがささる、というイメージを込めました。

私と美術 E 冊 21 冊 年 5

私の印象深い学習の思い出は、様々な絵をみてどんな技法が使われているか見たり考えたりしたこと、模写うらわである。技法を学ぶにあたり様々な思ふや物の見方が変わり、絵を描くときにそれを生かしたりすることからアイデアが豊かになったように思います。模写うらわではアイデアを簡単に出し、いろいろな角度からどのアイデアを使ったほうが一番よいのか自分が出したアイデアを模写、傍観者として考えた。相手の意見や周りのアイデアを思いながら考えることは、このことが自分の変化だと思っています。私は今までの美術の学びを振り返り、自分と美術との関係は深まったと思います。これからも様々な角度から美術を感じたり、さらに豊かな観点で物事を見たりしていきたいです。



題名 未来へ伸びる手 E 冊22 頁

高校や、さらにその先に向かっていっている今の状態を、力強く何かをつかみかけている手によって表現した。中央の花のような形は、私にまわりのたくさんの人・物との関わりでできているということを表し、家族や友達にこめられたあたたかい気持ちを表し、また、私たちの未来に広がっている不安・希望・癒し・愛・悲しみ・友情などを、たくさん色で表現した。手を黒で大きく描くことで若い力強さを表し、それを囲むことで、たくさん可能性を持っているんだということを表す工夫をした。手のまわりを水色・青色をぬって、空のように広大な未来に向かって進んでいることを表現した。筆触単に淡くして、未来が明るいイメージを出した。

私と美術

E 冊22 頁

美術作品を鑑賞したり、色や形について学んだりしたら、身の周りにある風景・看板などを見たときに、授業で学習したことを自然に思い浮かべるようになった。また、今までは単に形が格好良いとか色がキレイだとかいう捉え方をしていたけれど、3年間の学習において、作者が何を伝えたいのか、自分の思いやイメージを伝えるためにはどういう工夫が必要かを深く考えられるようになった。最近の印象に残っている「探川うらわ」の製作では、筆々と語りかけ、心に訴え、入る言葉と大に同調する、キリッとした文字と、あたたかいて心がやすまる言葉と、ろうそくをイメージしたやさしくかわらかな色や形で表現した。このように、感情といった抽象的なものを具体化する学習は、美術だけでなく、生活のいろいろな場面で役立つと思われ、3年間で学んだことを、とんと人生かしていまらうと思ふ。



題 1 求め方手  
 E 冊 29 頁 美術

手を伸ばしているところ、タテ線はほぼ、力を入れてその  
 のぼしている、中指が微妙に右をこるし、面  
 さました。手裏の感があるように、6Bの濃の鉛筆で、  
 特に指先を太くほした。輪郭を力強く描いた。さらに、指先  
 は赤、オレンジを用いて、手の甲の甲にかければ肌色、黄色に黄  
 色はした。手の甲から指先に向かて、徐々に黄ばみだして、赤  
 赤色は、手で何かをつかむ意志を表現している。それから中学を  
 卒業して高校の進学はするが、以て来が待たれるか分らない。  
 期待と緊張に、声たて来と手を伸ばして探りながら、指先に神  
 経を集ませながら、自分の手で、この間に、かたいてい、思いを  
 表現している。

私と美術  
 E 冊 29 頁 美術

私は中学校の美術をふりかえり、自分の心、自分の感性を覚  
 かすのにおおむねおぼた思っている。美術の授業の中心  
 が、印象に残っているのは色の学習です。色は自分の身の周  
 りにあるもので、その色に個性がある、その色を  
 物が構成するパレットに思っている。そして自分の色をつくる  
 のうまいと力を入れられた。色をつくるのは難しいと、それが無限の  
 可能性のののろろと選んで、これは自分の感性の上の、これは、  
 絵画を書くときはそのように意識したと思っている。そのスケ  
 ッチの授業も楽しかった。陰と影を使い分けると、その立体  
 的に物を描けたので、その色をぬるのうまい、色のぬるもの  
 を絵に入れることは大層だと思っていた。その他いろいろ、場  
 面と自分として、新しい発見があったと、かたべんありました。  
 そして自分と美術は、単に身近なところではない、かたべんあり  
 ました。料理のとりつけなども美術で培った力があめ  
 られると思っている。3年間を学んだことを日常生活に生か  
 せよう、身の周りに視点を向けておきたいです。



無 限

E 冊 24 冊 28

私たちの未来は、限りなく広がっている、という思いを表現しました。私たちの手は、将来、何をつかむのか、ということも考えながらその可能性の無限さを色で表し、未来をつかむという意味で指を曲げたポーズで表しました。色鉛筆の学習で学んだ「重ね」を使って、何色かを重ね塗りしました。クレヨンという画材を選んだ理由は、力強さやエネルギーを表現することができると思っただからです。構図としては、枠内におさまりきれないのびのびとした感じを出すために、切れて見えるように描きました。何色もの色が混ざりあう深い色合いを出せたらと思います。

私と美術

E 冊 24 冊 28

私は、この3年間美術を学んで、「自分を表現する」ということの大切さを学びました。自分の個性を大切にすること、表現が、美術の中には生きているのだと感じました。例えば、着彩の時には模の足かづの「そのままの色」ではなく自分の色を作ること。又、自分の思いを作品に表現し、見えないものの視覚化に挑戦すること。自分の中身を表すという面で、自分とも向きあうことができたと思います。自分という存在を何か形にするという手段としてはもちろん、自分を見つめるきっかけとして、美術は私にとってかけがえのないものです。美術を学んだことで、「私は私らしくて表いんだ」と、自分の特徴や個性を肯定できる感じがありました。これから高校へ進み、大学へ進み、大人になっていく中で、美術は生活に密着したますます大切なものになっていくように思います。





題名 未来の木 E 25 頁 氏名  
 エンペイの未来木と手をあわせた。  
 手首の所が加ゆえで強くなり、木の葉も味をいーじし  
 た。  
 手のまわりは日の光が照らす木に影をあたえるものをあ  
 わした。  
 明るい所を中心に、下で全体的に明るくなった。しかし  
 横や下は暗い色にして、明るい部分でなく、因  
 難な苦痛もあつたといふことをあらわした。

私と美術 E 25 頁 氏名  
 私は自分の所が好きな作品でつくり出すことが得意であ  
 りません。  
 スケッチなど、ものに好きなものをうつしることが好きでした。  
 しかし、この3年間の勉強を通して、少しづつ作品を作る  
 ことができようになりました。  
 中でも、自分の本当に出したいイメージやデザインがたせ  
 るようになってきたからです。  
 中学校で学んだ色の持つ意味や形など、林の森を借りて  
 美術の一番大切な部分である、和や色など、いろいろな  
 になりました。  
 美術は言葉で表現できないような感情や思いを伝えるこ  
 の手段の一つです。  
 その大切さをわかってほしいです。



題 1  
 名 まっすぐに。 E組 26番 氏名

この中学校生活で私が学んだことは、折れたり、曲がったり  
 折れるも一本身にかまっすぐなものを持つには、折れはとも  
 曲がらぬともないことです。それが友達なのか、物、家族かは  
 人それぞれです。今考えれば、大切な人に又さらされた人  
 だと思えます。

人さし指をまっすぐにしたのは、どうなりた、なれるように  
 自分がはっている船を表現しています。

腕の目標を伸ばしてという、目標を指=しこ→とります。

ペンで書いた理由は、ゴッブリも似た具合に書いていたこと、  
 線の色や質感、スライムなどという、たまたまよく、ゴブリと  
 かけあがります。

私と美術 E組 26番 氏名

美術は母の影響もあり、小さいころから絵をかくことが好きでし  
 た。でも、お父さんやお母さん、絵をかく以外のことは苦手で、  
 また、デザインアスクもいまだ苦手で、  
 多分私にと、この美術科の絵をかくこと、それも  
 静止している自然のものをかくことだと思えます。

最近、ペンで書いた作品が漸漸多くなってよく使います。  
 私の美術科はとこも狭くて小さいですが、今日この時間にか  
 いた午は、日々ペン入れや静止画、先生の教えでアブ、た  
 びに描写を使、てかきました。



題名 思い出と未来 E冊外題 氏名

下半分は附属中学校での思い出について、  
部活のことやクラスのことを短い単語で  
あらわしました。  
上半分は未来への不安を音であらわし、  
緑は思い出を大切にしようという  
意志をあらわしました。  
文字を使ったのは、目で見えるものとして  
表現したいと思ったからです。

私と美術 E冊27冊 氏名

私はあまり絵をかくことが好きでは  
ありませんでした。  
でもアイデアスケッチがいたり、  
実際に絵をかいたりすると、  
自分の考えを表現できていて、  
とても楽しかったです。  
「手」のスケッチだけでなく、たくさんの  
思いがあり、それを画用紙の中に込める  
方法と、この3年間でたくさん学びました。  
私はこの3年間、美術を学習することで  
色の持つ印象や効果なども、  
分かるようになったと思います。  
だから、これから美術をたくさん学習し、  
絵への理解を深めていきたいです。



題名「新世界への旅立ち」 E 冊 28 頁 15才

15才で中学校生活は終わり、皆新たな道を歩きはじめる。学校生活で自分を支えてくれた人の中で、やはり同じ15才の「友達」の存在がとて大きく感じる。自分と友達のつながりを「手」をモチーフにどう表現しようかと考えると、「握手」が浮かんできた。出会えたこととお世話になったことに対する感謝、別れに対するつらさ、これからの未来に対する希望をあわせて表現しようと考えた。感謝の大きさを左手の親指の力強さを強調するために、つらさは片手に寒色系のグラデーションをつかち、そして希望はもう片方の手に暖色系のグラデーションをつかち、お互いの色と手と力強さをひきたるために手のまわりに緑のオーロラをつけた。あくまで手が主役なので、程度の余白を残しておいた。

私と美術 E 冊 28 頁 15才

小1の頃、私は図工が得意だった。好きなように自分の感情を絵や造形物で表現できたからだ。しかし、学年が上がるごとに「うまくつくらなきゃ」と考えることが多くなり、図工が苦手になってしまった。そんな状態でも私は中学へ行ってきて、最初の頃は、やはり苦手の印象が抜けなかつたのだが、戴わんとどアザトとつらく、や「うちわがくり」、「木とつらくらう」などの授業で特に、「美術」を楽しいものなんだな、と強く思った。いくら学年が上がるのが、「うまくつくらなきゃ」が最重要ポイントではないんだと思う。(もっとも、丁寧に仕上げる、とは話は別。)一番大切なのは、いかにして、自分の感情や心の内をどんな材料でどこに表現するか、だと思った。そして、今回の作品「15才の手」には、今までをふまえて、たくさん技法をつかち、自分が表現したい感情を表せたと思っている。これからは、「どう表現するか?」を大切にして、美術の学習をより深めていきたい。



題「て」 E 冊 29 冊 冊  
 空、緑、大地、光、の自然をイメージしました。  
 中学生の3年間での学んだこと——勉強だけ  
 ではありません。友達とか、先輩とか、後輩とか  
 色々な人から学んだことのイメージが自然  
 でした。今が未来に、未来が過去につながっていく  
 そんなイメージです。

私と美術 E 冊 29 冊 冊  
 自分の感じたものを表現する方法は、文字で  
 書くとか、ジュスチャーとか、絵を書くとか、たくさん  
 あります。でも何で表すにせよ、一番的確に  
 表したいと思うと、技法とか、そういうものを  
 知ることとはとても大切だと思えます。  
 水の量による絵の具の色の違いや、絵の具と絵の具の  
 組み合わせ方、ぬり方、道具の使い方…  
 そういったものを知ること、小学校より1年生  
 1年生より2年生、2年生より3年生とだんだん  
 的確に自分の思いが伝えられるようになりました。



Start 7月入学 美術

もうすぐ卒業し、高校生になる。新しい生活がスタートします。  
 高校生になる。色んな事を見つけた。それを活かせることが出来る。  
 ように、手の形はグーの形にしました。また、それとは別に、新しい  
 高校生活が始まりました。毎日毎日という気持ちで、手への  
 思いを注ぎたい感じにしました。また、新しい高校生活にあたり、  
 思いがあふれます。明るい黄色のうすい色を背景につけました。また  
 知識を表現するために、手のこぶをワカクエした。少し青少しく  
 かったりしました。

私と美術 7月入学 美術

1年生の最初のころは、絵をかくときに、何も考えずに、ただ、絵を描いた。  
 たた、色をぬ、塗りつぶすだけだった。この3年間、美術の時間を  
 通い、絵をかくことに、いろいろを体験があった。絵画の中心に  
 置く物や、色を工夫したりすること。自分の絵の、かけこみを知り、  
 技法も、いろいろ覚えていくこと。絵をかくときに、色と色を  
 マイクでかくように塗った。一番印象に残っている学習は  
 いろいろある。この絵が、黒板にはいて、いろいろ音楽を聞いて、  
 「この音楽は、この調子の絵だ」といって、音楽と絵を結びつけて  
 いくのが、楽しかった。また、この学習で、絵のことは、その人が  
 気持でかいた、絵だと、伝わる。その中で、いろいろ絵のことは、  
 2人の絵の、かいた、音楽の、絵の、かいた、いろいろ知った。  
 3年間の美術を通して、技法の、基本的なことを学んだ。絵画の  
 自分だけの工夫を考えた。1年生のときに、かいた、ついで、思いつく、  
 高校に入ると、この3年間の学習を、活かして、いろいろ思いつく。



題名 過去から未来へ E組 引部 氏也

これらの希望と夢をうかしのとして描きました。  
鉛筆でかくことに右手に直線を感じました。今の15歳の手を元がさ。  
淡色系の色鉛筆で未来の希望の光を元がさ。かわかなあたたかさを  
だしました。また、手の形も工夫すること。未来への意欲を感じ  
させてと共に今まで、過去にうかしてきたものもにきり、思いこんで  
いるような感じを表現しました。  
過去を象徴している手のあたりに黄色とオレンジで未来  
への希望を象徴(強調)させました。

私と美術

E組 引部 氏也

中学校生活において美術と私の関係は様子を場面と活かされて  
いたように思います。年生の頃が線や色や筆の使い方を  
工夫すること。どのような効果か。でもかたどきで用紙にある  
ための生活用品の長さや幅などに従わなければならない  
自分なりに解釈し理解していくことができた。  
中学校に入るまでは美術とは自分から存在の無い物だ。けれど  
中学校に入ると新しい美術というものの理解と美的感性の物色作  
る時に新しい工夫をうかしていった。  
これからは様々なるもの。工夫をうかしていきま。



この手は「何かをつかむかかていた場所を色で」して描いたものです。「何か」とは、物事をやるための目的であったり、これからどうしていいかという考えで、未来へとつながりがけています。手の明るい色が未来への希望と期待をあらわしていて、まわりの暗い色は今の不安と心配をあらわしています。色のない手が入り混じっていたので、色ぬり方をグラデーションと色を混ぜてみたりといった方法にしました。

私と美術 E 姓 氏名

3年間、私は美術で様々なことをやってきました。糸の刺繍を使った木、細工といった、小学校の頃も経験したものであり、金属の加工といった授業でやるものも考えておこなったこともありました。最初の頃は、手から色を表現しようとしたけれど、よく分からなかった。もう自分は中学生になったという、今までよりもとっとなんかを作らなければいけないと思ったり困っていた。しかしそのうち、いざなりそうするのには無理だと分かり、あきらめて自分の思っているだけ作ってそれを描くようになった。それで他人にはそれが、オビの刺繍の刺繍とかある。あとは、それに合わせてまた追加すれば良い作品が作れる。それができていいと分かった。しかしまた、自分の考えは作品には、いざいざ足りないと気がする。色ももう少し色にかたまたまはいいけれど、これからはその点も意識して美術との向き合い方を、もっと美術が楽しくなると思える。





姓名 50私 | E 330 氏名

15歳は手塚 和夫 について 40%近く  
 一生懸命 70%近く 手塚の話を聞いて  
 70%近く 手塚 和夫 について 聞いて いると ころ。

高橋の心、藤本の心、野矢の心...  
 いざいざ 先生に 手塚 和夫 について  
 自分と 手塚 和夫 について 話を 聞いて いる。

それを 表現 している。

私と美術 | E 330 氏名

私は小さい頃から 絵を描くことが 大好きで 将来 アーティスト  
 になりたい。と 思っていた。

しかし、三年前、両親が 美術 学校 に入ると、美術 学校  
 に入らなかった。

美術 学校 に入ると 作品 を見ること、作者、PMの  
 思いと 技術の末にある 作品 について 考えること。  
 それで 自分 自身、思い について 考えること。

美術 学校 に入ると 国語 科目 について、美術 学校 に入ると  
 数学 科目 について、歴史 科目 について 学ぶこと、  
 自然 科目 について。

美術 学校 に入ると 授業 について 聞かされて、1年、2年、  
 3年、70%近く 手塚 和夫 について、自分 自身、美術 学校 に入ると  
 聞かされて、聞かされて。

将来 自分 自身、手塚 和夫 について 美術 学校 に入ると 聞かされて、  
 E 330 氏名





止まては考えて進んでいる E 35 氏名

最近私はよく自分の時を見せる機会がある。どうして？もちろん勉強しているから！そして、勉強している時の手つくり入心つをにぞている時の手はたゞ自分を表しているなどと思う。一般的には強弱か、人を表すと訂めるけれど、私の時は表だけじゃない。光臨たる手の甲は、いつも元気でよく笑うかの神経質もね。でも手の裏にある手のひらには将来が表されている手相があって、さらにその上にはその時々の時の裏や形が大きく変わる影がある。これはその時々の影を感じていること、それによってどうなるか、どうなりたいか、何を表している。そして、なにかがあつた、なにかを失った、ただでは何も変わらない、何も起こらないから、まずは入心のつをにぞて、どうなりたい、何へ向かって書き進めていく。そんなふうに思う事ができるのは、今、たけいも出来ないから、今日の私の時は、この様子を制作することにした。息を吐く。

### 私と美術

E 36 氏名

3年間の美術の思い出はいくらもある。でも、どの思い出にも共通が、関わる。音楽をきいて色にする。景色を描く。自分の物を大切にします。

私が中学校の美術でとても驚いたこと。それは、ひとつも同じ物が無いこと。小学校の時は、男子の絵は赤、青、黒、白、女子の絵は赤、青、黒、白、茶、白が主流だった。美術中の人はほとんどそんな感じ。でも、どうも自分か一番出るかを深く考えて、どいど人を作りたい人達ばかりだった。そしてその人達の作品を見てから、解説時間のはあと楽しんで、話した。それまで、絵を習って、大抵の考え、美術はひとりで楽しむもの、だから感じ方が違つたから、一緒に楽しむ出来ないよ、大きな間違いだ、たことが分かった。同時に自分の思ふこと、感じたことをそのまゝ色に表現することが一番重要だ、ということも分かった。



この会は、暗い絶望の中でも誰かの心、何かの心にも  
 光がさすように手をあわせている。  
 つらい時でも、暖かい心とHandは、はずばらしいものだ。  
 必死に何かにもすがってのびている、可能性をつかみとろうと  
 もがいては様子をみすために、ほこりを履きつけた。  
 消えてもまた消すと、白くなり、そしてこのほこりの羽り  
 ように、かたて上がった。鉛筆は、切実に表現するために使った。  
 3年間のあつげけれど、また新しい3年間の始まりから  
 もう一度はれのからかみはろう。

私と美術

私は、小学校時本画工が大好きとほめた。  
 作品をつくったけど、表したい感情にながたからた。  
 けれど、中学生になつて美術が好きなになつた。  
 色を使ったカラー画という種類、表せたい感情を  
 作品をつくる前に考えながらからた。  
 また、つくりたい自分のイメージのイメージ(例は、感情的か  
 直線的かなど)を、かいて認識すること、よりリアルに  
 表現がはかした。  
 次に、実際に、道具をつかいて作品のそと  
 とは材料の特性などし、表現してつくること  
 それに、つくりかた、また、表現の仕方など  
 が、どうなるか、表現の仕方など。  
 美術は、身のまわりにある色を、表現が、表現  
 するために、身近な表現でないものだ。



題名 '自然と共に希望' E 組 39 歳 氏名

水や葉など、自然の中で希望を指さす指のところに、常に“自然”存在自分のままで、将来の夢も叶えられたらいいな...という思いを込めて描きました。自然のようにたまたまで美しい未来を想像し、表現しました。

水や葉は、何でも単に“青”や“緑”ではなく、その物がもたらすように強い色で色んな色を混ぜてみました。また、あくまで手を強調したかたので緑を少し太くしました。希望の光から色んな色に染まっていく段階の途中を表現する未知の未来や、未来染まりまわらないという事を実現しました。

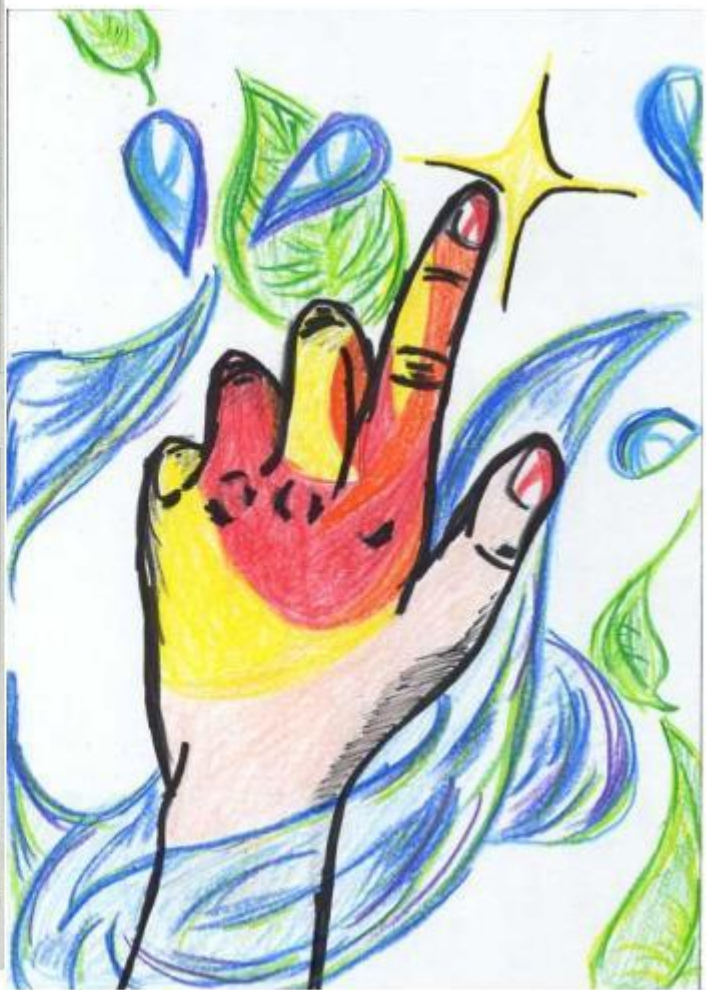
私と美術 E 組 27 歳 氏名

美術は技法はもった、自分が持っている感性を表現できる素晴らしい物だと思ってる。

小学校の時、みんなと絵をかいて、なんとなく自分の絵に納得がいかなく、家ごとにかいた人絵をかきました。風景のようなものではなく、女の子の絵や猫の絵など、なんの色もない鉛筆(赤)だけの絵でした。とにかく絵が好きで法というもありませんが、上手にたいたいと、思いがとまわりました。

そのうち、物の動きやあたり、独特のうねりに自然と表現できるようになり、意識をしたり、深く考えなくても、手でなんとなく動きをリアルに表現できるのになっていった。

美術というのは技法や知識を知らなくても、見よう見まねだとはいえず、自分の気持ちをもとに表現できる、和の心で“表現技法”だと思ってる。



題 ' Good Luck!!

E 冊 38 頁 尺巻

たくさん手のポーズがあるのになぜこのグッドラックポーズにしたのか、それは、私の未来を築くためです。イイことはかきではない人生。イイことどころか悪いことの方が圧倒的に多いのではないかと思つたことも何度もありました。思い出したくない古い過去や失敗が50歳以上したい。そんな思いを込めて描きました。過去でなく、今、を生きれるように。福子ではなく、前を見つて歩き続ける為に。未来へ... Good Luck!!

私と美術

E 冊 38 頁 尺巻

私は、はきりいて美術は苦手で、手先が不器用だし、センスもないし...、自分の手で何かを製作するのが大好きでした。でも、この手を揺くのは全然苦ではありませんでした。むしろ楽しかった。立派なものを描こうなんて思はず。自分にとってのベストを尽くす...、大切なのは立派なもの製作ではなくて、ありのままの自分を表現することなんだと、やと本当に理解できました。自分の頭や腕ではなく、心で製作!! この作品 ' Good Luck!!' は15歳の私そのものをから...、Artを愛していきたい。本物のArt,を目指してこれからも夢たまたごなどの美術作品を製作していきたいです。





